

1. 評価報告概要表

作成日平成 22年1月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201114
法人名	社会福祉法人高崎市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム一路
所在地	高崎市片岡町3丁目26-8 (電話) 027-320-7007

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年1月27日

【情報提供票より】(平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8	常勤 2人, 非常勤 6人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 9,000円/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	1日 1,100 円			

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	79歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏仁会 松岡病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、高崎市街地の西部、観音山丘陵の麓の閑静な住宅街にあり、高崎市社会福祉協議会が設置・運営している。入居者は年々重度化しているが、可能な限り自立した日々を送れるよう、調理や掃除など得意としている日常業務を自発的に担ってもらっている。また、日用品の買い物や外食行事・花見を兼ねたドライブ等を行ったり、地域の人々が集う「ふれあい・いきいきサロン」に参加し、地域の人達との交流を通じて喜びや楽しみを自覚し、各々の入居者が満足感を得て日々その人らしい暮らしができるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である、「運営推進会議を活かした取り組み」、「現状に即した介護計画の見直し」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」、「鍵をかけないケアの実践」については、職員にコピーを渡しミーティングで説明している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者が作成し、ミーティング時に項目別に説明し、意見を聞き修正のうえ作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は年3回開催し、運営状況や新型インフルエンザ対策等を報告し、意見交換を行っている。家族から足腰強化のためにリハビリや運動の要望があり、ラジオ体操やリハビリ体操を行っている旨を説明している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>受診状況等は電話連絡すると共に、利用料を持参した際に日常生活状況等を知らせている。利用料振込みの家族には、利用料請求書に「お知らせ」を同封し、行事開催状況等の報告や新規採用職員の紹介をしている。また、面会時に家族の要望や意見等を聞き、職員の名前が分からないと言う家族の意見に対して名札を着用するなど取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の回覧版が回り、公民館で毎月開催される「ふれあい・いきいきサロン」や納涼祭・どんど焼等に参加している。保育園児が節句や七夕等季節毎の行事に合わせプレゼントを持って訪問したり、隣人が毎週食卓の花を変えてくれたり、無断外出者がいると知らせてくれるなど地域の人々との交流深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年度理念を見直し、「安心のある環境のもとで地域の方々とのふれあいを大切に豊かで、明るく、穏やかに、自立した日々を過ごせるようお手伝いさせていただきます。私たちは、第二の家族です。」を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングで理念を唱和し共有して、地域の人達との交流のあり方など理念に沿った介護について話し合っている。自立した日々の過ごし方などの支援内容に迷いや問題が生じた時理念に照らし合わせ課題解決にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の回覧版が回り、公民館で毎月開催される「ふれあいいいきサロン」や納涼祭・どんど焼き等に参加している。4月以降は地区の清掃活動等にも参加を予定している。保育園児が節句や七夕等季節毎の行事に合わせプレゼントを持って訪問したり、隣人が毎週食卓の花を変えてくれたり、近隣の方が無断外出者がいると知らせてくれるなど地域の人々との交流に深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が作成し、ミーティング時に項目別に説明し意見を聞き修正のうえ作成している。外部評価結果は職員にコピーを渡し、ミーティングで説明している。	○	外部評価の改善課題については改善シートを作成し、職員と共に改善に取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を今年度3回開催し、運営状況や新型インフルエンザ対策等を報告し、意見交換を行っている。また、家族から足腰強化のためのリハビリや運動の要望があり、ラジオ体操やリハビリ体操を行っている旨説明したり、市役所職員の助言を得て近所の人たちを対象とした研修会開催を予定している。なお、議事録に自己評価や外部評価の記録はない。	○	会議を2ヶ月に1回以上開催し、自己評価や外部評価の結果を議題としてあげ、意見等を運営に反映され、サービスの向上に活かすよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新書類や人員変更届・スプリンクラー設置補助申請書等を持参した際に、届出期日や記述内容の指導を受けている。また、介護相談員が訪問し入居者の要望を管理者に伝えるなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	受診状況等は電話連絡すると共に、利用料持参した際に日常生活状況等を知らせている。利用料振込みの家族には、利用料請求書に「お知らせ」を同封し、行事開催状況等の報告や新規採用職員の紹介をしている。医療費等は立替金処理し、毎月の利用料請求時に領収書を添え精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望や意見等を聞き、職員の名前が分からないと言う家族の意見に対して名札を着用するなど取り組んでいる。また、契約時に重要事項説明書に記載されている外部の苦情対応窓口を説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用職員には、入居者は人生の先輩であることから常に指導を受ける気持ちを保持し、不快な思いを与えない介護を心がけるよう指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コミュニケーションの取り方について講演会を聞き、レポートの内容をミーティング時に報告している。また、毎朝のミーティングで言葉使いや介護のあり方について指導しているが、計画的な外部研修への取り組みはされていない。	○	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて職員の資質向上を図るよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しているが、同協議会が主催する研修会等には参加していない。	○	同業者との交流を通じ、サービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学し、一泊二日の体験入居を行っている。入居前に家族から生活歴や病歴等を聞き、持ち込む物や部屋のレイアウトを相談するなど、馴染みながらのサービス提供に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の「ありがとう」の言葉を励みに、入居者の苦労話から人生勉強をさせてもらっている。また、調理や洗濯などの家事が入居者のやりがいとなっており、日々笑顔で過ごせるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で、入浴の希望や食事の好み等を聞いている。意思表示の困難な人には、「こうしたいがどうですか」と幾つかの言葉を投げかけ、その表情から意思や思いを汲み取り、本人本位の支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族の意向を聞き、主治医や訪問看護ステーションの看護師の意見を取り入れ、ミーティングで話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを行い介護計画の見直しを行っているが、左手骨折の人の見直しはされていない。介護計画は家族に説明し、署名捺印を頂いている。	○	入居者の身体状況の変化等現状に即した介護計画を作成されるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や理美容院の送迎・実家や親戚訪問・寺への墓参り等は、職員が行っている。また、医療連携体制の指定を受けて、訪問看護師の指導を受け入居者の健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医の定期受診は原則家族が対応し、家族の都合により職員が付き添いをする場合もある。かかりつけ医の紹介状をもとに協力医に変更した入居者は、必要に応じ往診を受け、診療結果は家族に電話連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合も可能な限り事業所を利用できること、看取り介護は主治医の指示・指導のもとに訪問看護ステーション等関係医療機関と連携し最大限の対応をすることが記載された「指針」を本人及び家族に説明し、署名・捺印を頂いている。また、職員にはミーティングで説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心やプライバシーの保護は、介護職の基本事項と全職員が自覚している。排泄介助の言葉かけに配慮し、ミーティングで使用する呼称はニックネームを使用し、朝の洗顔や着衣を各居室で行い身支度が整ってから他の入居者と挨拶を交わすよう支援している。また、記録書類は事務室に保管する等留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事など一人ひとりのペースを大切に支援をしている。日用品や楽譜の買い物したり、コーヒーとケーキを食べに行ったり、刺繍をしたり、絵手紙を描くなど可能な限り自立した日々を送れるよう支援している。また、食事の準備や地域の人達との交流を通じ、喜びや楽しみを自覚し各々に満足感が得られ、総ての人に平等な支援ができるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者が最も楽しみとしており、入居者の好みを取り入れた献立で、新鮮な旬の食材を使用し、見た目も美味しく食べられる調理を心がけている。また、入居者はじゃがいもの皮むきなどの下拵えをしたり、箸や茶碗を配ったり、食器洗い等を自発的に行い、職員と共に食事を楽しんでいる。外食行事では、普段食事介助を受ける人も他者と交わり刺激を受けて一人で食事をするなど自立心の確立につながり、今後外食行事を多く取り入れていくこととしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を原則としているが、6日間の入浴日を受け希望者は何時でも入れる体制にある。入浴を拒否する人には無理強いすることなく言葉かけや入浴日を変えて支援している。時にはゆず湯など季節感を感じ楽しく入れる工夫をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除など得意としている日常業務を自発的に担ってもらっている。毎月公民館で開催される「ふれあい・いきいきサロン」に参加したり、高崎祭りの花火見物、日用品の買い物や花見を兼ねたドライブなど楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日溜りでの日光浴や護国寺への散歩、回覧版を持参するなど戸外に出かけるよう支援している。高崎市役所広場の散策や外食行事などにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターを利用し、一階の居室と二階の居間兼食堂との間は自由に通行できる。玄関の鍵は、一階玄関前の事務室に職員が居る時は施錠しないこととしているが、日中は職員も含め2階で過ごすことが多く、家族の了解を得て不審者侵入の防止のため施錠している。	○	入居者の安全を確保しつつ日中は鍵をかけない工夫をされるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルが制定され、緊急連絡網や避難経路が定められている。無断外出者の搜索で職員全員が出払った場合に近隣の人が事業所で留守番する内容も定められている。消防署の指導の下に、夜間を想定した総合避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、見た目も美味しく食べられる調理を心がけ、食事摂取量は「食事摂取量・排泄・入浴チェック表」に摂取割合を記録している。水分摂取の状況は、コップ1杯200ccとし1日1500ccを目安に摂取している。今後、カロリー計算等を市社会福祉協議会の管理栄養士に依頼することとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隣人が毎週活けてくださる水仙や梅等の花々が、食卓に香りと潤いを添えている。食堂に接した和室には掘り炬燵があり、廊下には入居者が色付けをした絵手紙が飾られ、入浴後や運動後に休息する長椅子が玄関前や廊下の所々に配置され、居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはウォシュレットのトイレが整備され、入居前に使用していた茶箆等家具類や調度品等が持ちこまれている。また、家族の写真や囲碁大会で優勝したカップやトロフィーが飾られ、保育園児から送られた飾り物が掛けられるなど心地良く過ごせるよう配慮されている。		